

2 質問紙調査の結果から

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

ここからは、児童生徒質問紙と学校質問紙の結果から、県全体でどのような傾向が見られるか確認します。

まず、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する項目に焦点を当てて見ていきましょう。



学校及び児童生徒質問紙調査において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか（取り組んでいたと思いますか）」について「そのとおりだと思う」と回答した学校の割合と、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合に20ポイント程度の差が見られます。

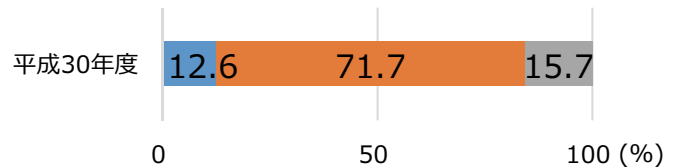
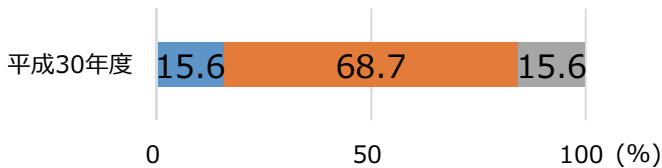
児童生徒質問紙調査におけるクロス集計【選択肢毎の平均正答率】の結果から、「当てはまる」と回答した児童生徒の方が、「当てはまらない」と回答した児童生徒より、平均正答率が高いことが分かります。

【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか。（新規）

小学校

中学校

■ そのとおりだと思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

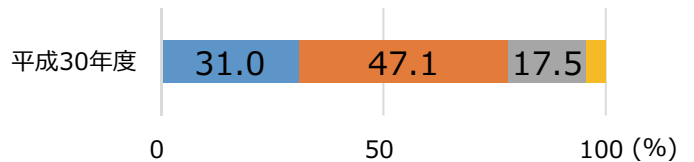
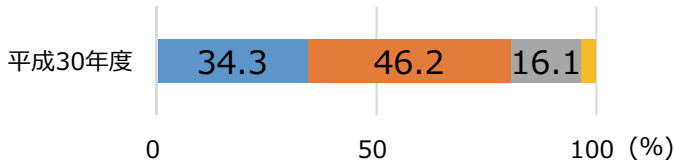


【児童生徒質問紙】 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。（新規）

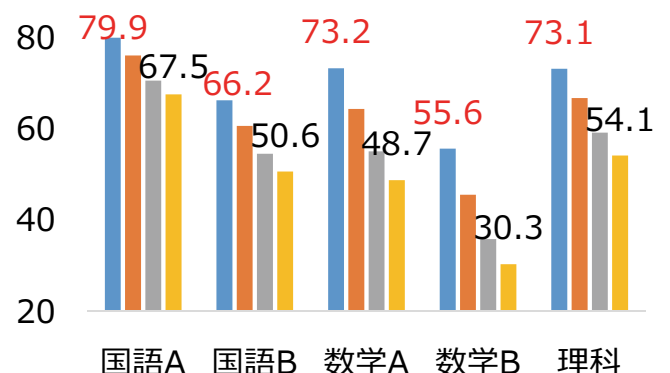
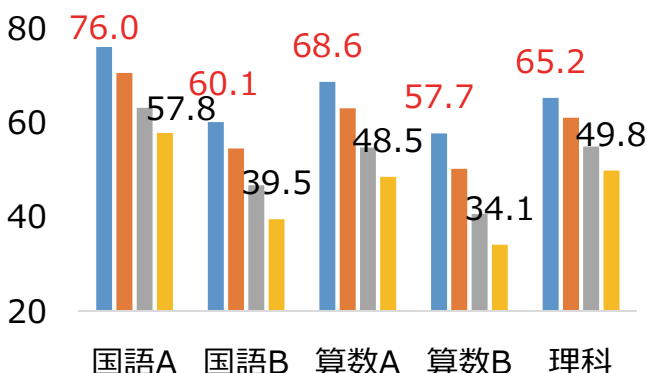
小学校

中学校

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



【選択肢ごとの平均正答率】



児童生徒質問紙調査において、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」について、「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、昨年度と比べて小学校で6.2ポイント、中学校で14.1ポイント高くなっています。

単元や題材のまとめの中で、習得・活用及び探究の学習サイクルの確立を一層図ることが、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイントと言えます。

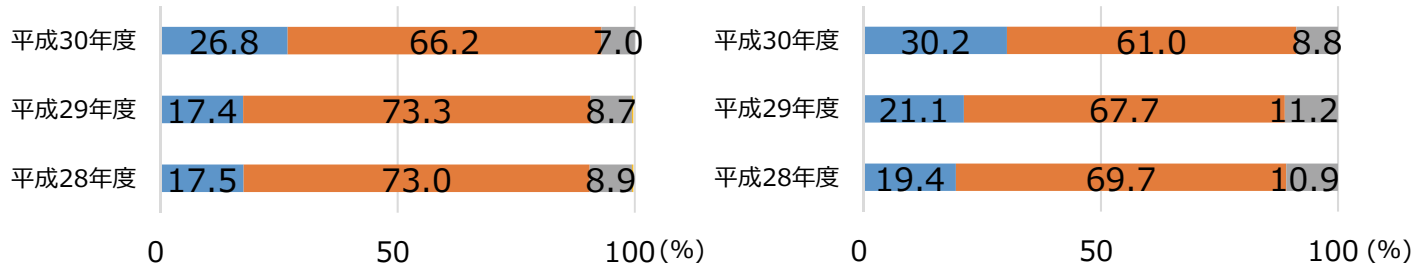


【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

小学校

中学校

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った ■ あまり行っていない ■ 全く行っていない

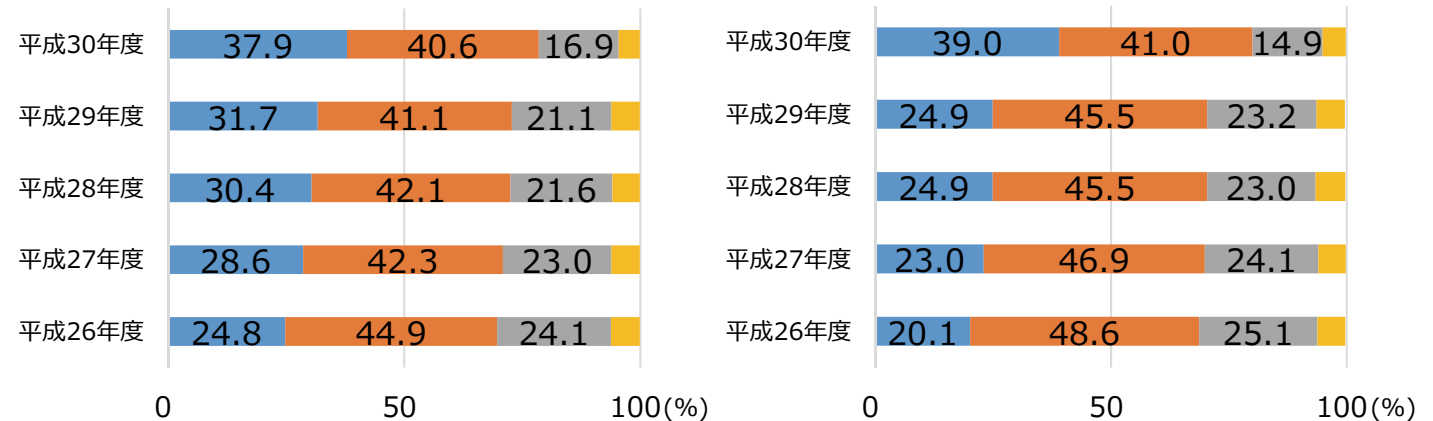


【児童生徒質問紙】 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

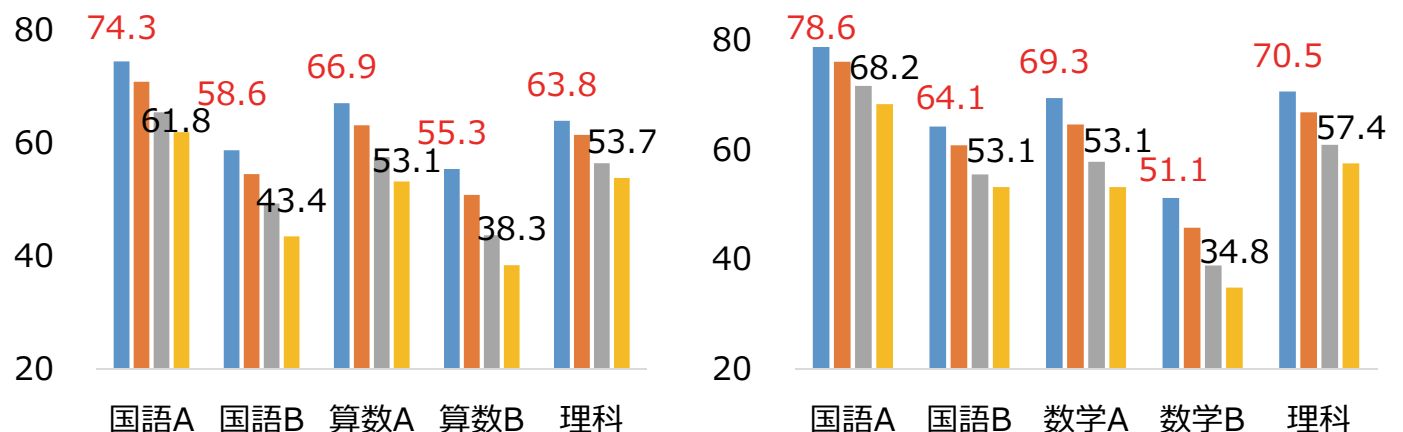
小学校

中学校

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない



【選択肢ごとの平均正答率】



(2) 学校運営に関する取組状況

「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」について、「よくしている」と回答した学校の割合は昨年度と比べて小学校で4.0ポイント、中学校で14.2ポイント高くなっています。

本ページの一番下にある、二つの学校質問紙のクロス集計の結果から、業務の改善に取り組んでいる小・中学校の方が、児童生徒の姿や地域の現状に基づいた教育課程の編成、実施、評価、改善といったPDCAサイクルを確立している傾向が見られます。

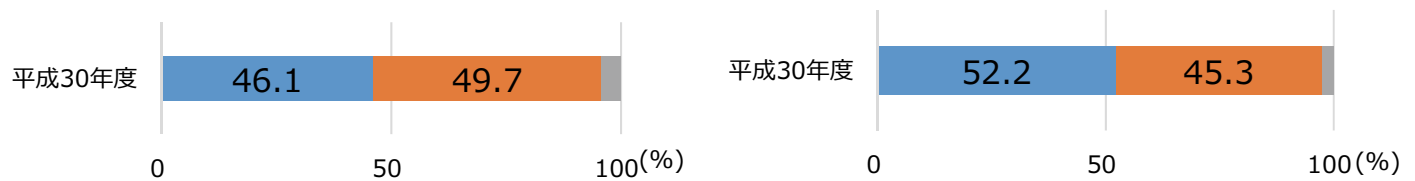


【学校質問紙】 学校として業務改善に取り組んでいますか。（新規）

小学校

中学校

■よくしている ■どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない

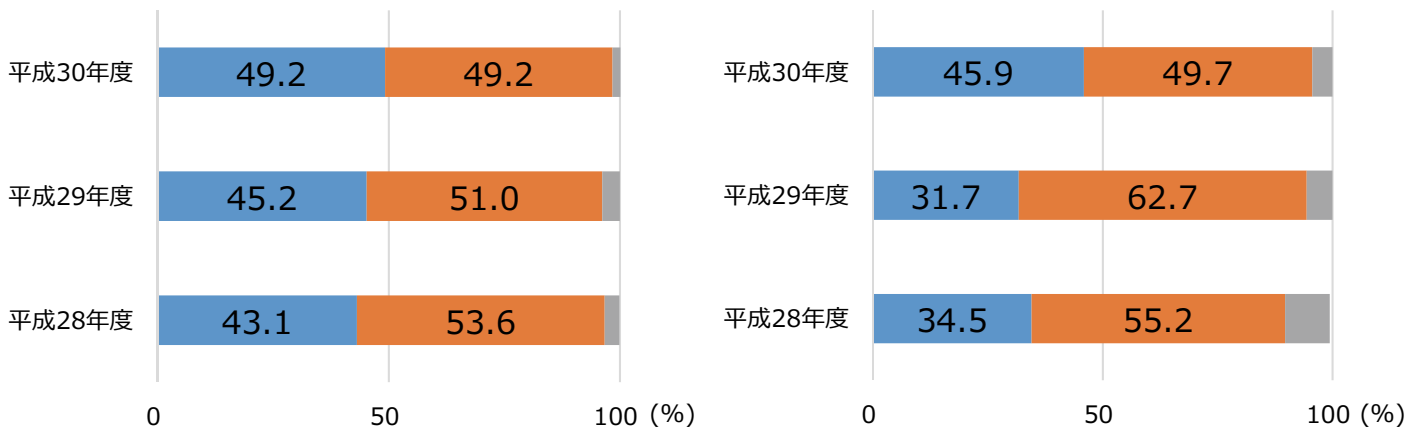


【学校質問紙】 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

小学校

中学校

■よくしている ■どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない



【業務改善】と【PDCAサイクル確立】の関係

※全国のデータを基に分析しています。

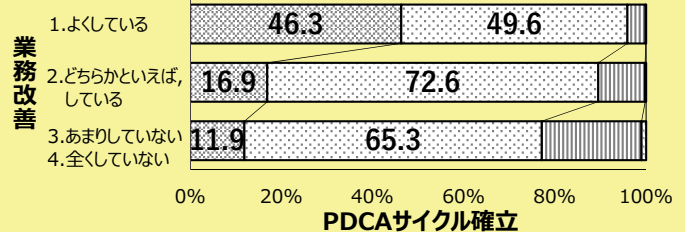
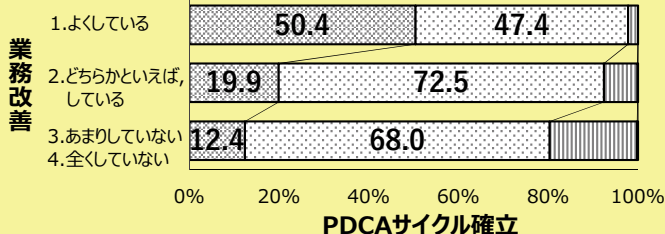
(学) 業務改善に取り組んでいる



(学) 各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

小学校

中学校



■よくしている ■どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない ■その他、無回答

「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果」(文部科学省 H30.7)

(3) 児童生徒の自己肯定感等に関する状況

「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか」について、「よく行った」と回答した学校の割合は昨年度と比べて小学校、中学校ともに23.8ポイント高くなっています。

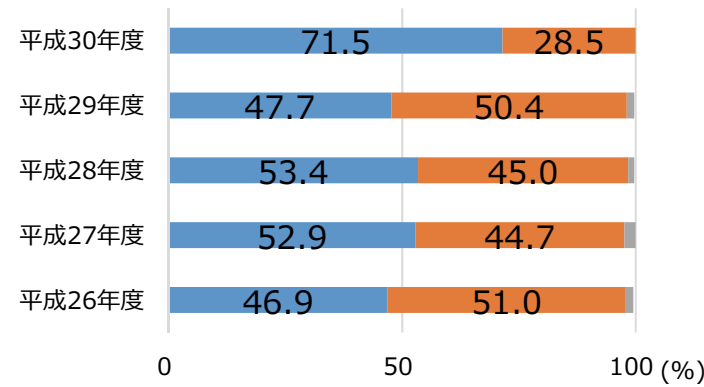
児童生徒質問紙「自分には、よいところがあると思いますか」のクロス集計の結果から、「当てはまる」と回答している児童生徒の方が、「当てはまらない」と回答している児童生徒より平均正答率が高い傾向が見られます。



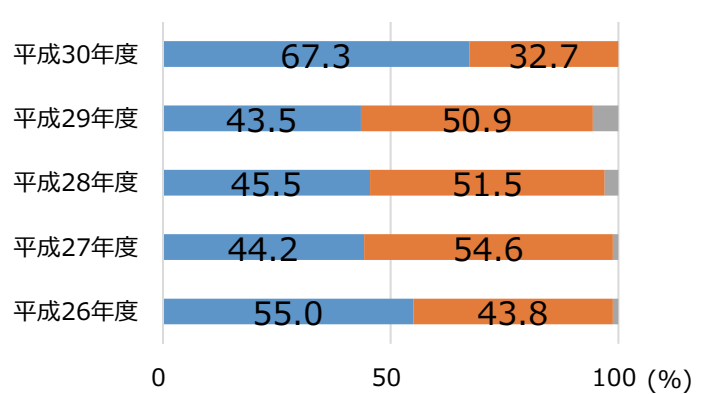
【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った ■ あまり行っていない ■ 全く行っていない

小学校



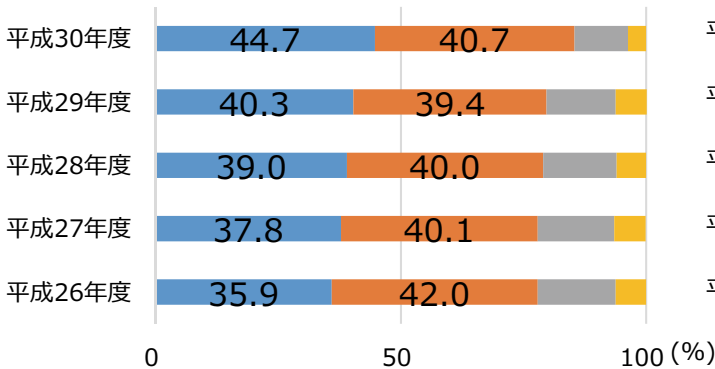
中学校



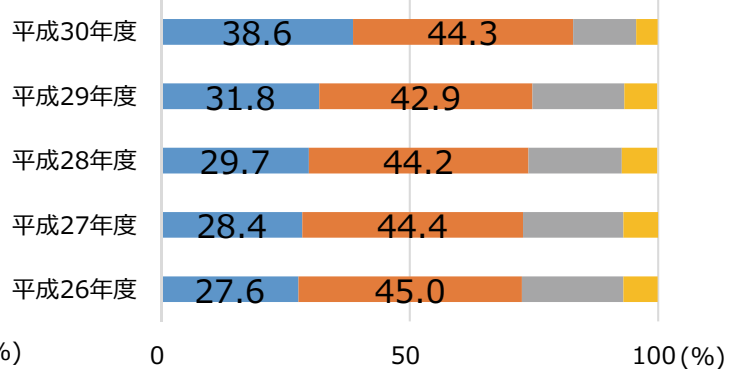
【児童生徒質問紙】 自分には、よいところがあると思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

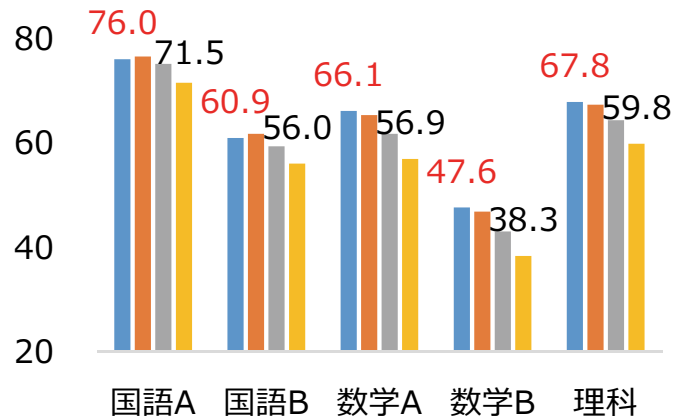
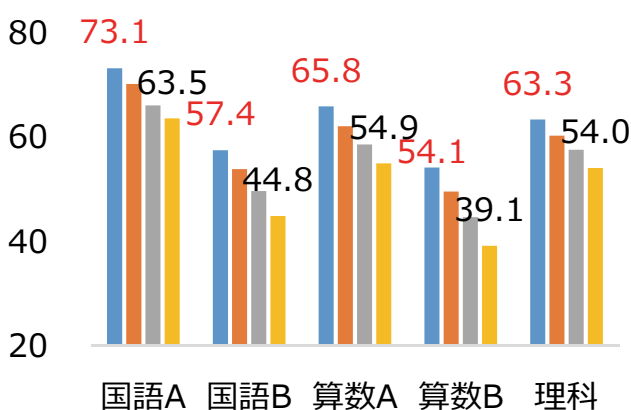
小学校



中学校



【選択肢ごとの平均正答率】



(4) 調査結果の活用

全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、学校全体で教育活動の改善のために「活用」したか、教育指導の改善等に「反映」したかについて、「よく行った」と回答している学校の割合は、年々増加している傾向がみられます。

これまでの各種学力調査から、下の学年において課題であった学習内容は、上の学年の学習内容に影響を与えることが考えられます。

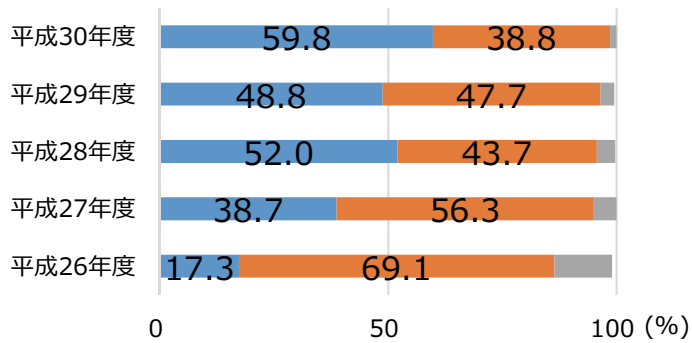
そのため、義務教育9年間の学びの連続性を重視し、小学校と中学校が児童生徒の実態を共有し、系統性を大切にしながら学習指導の工夫・改善を図ることが大切です。



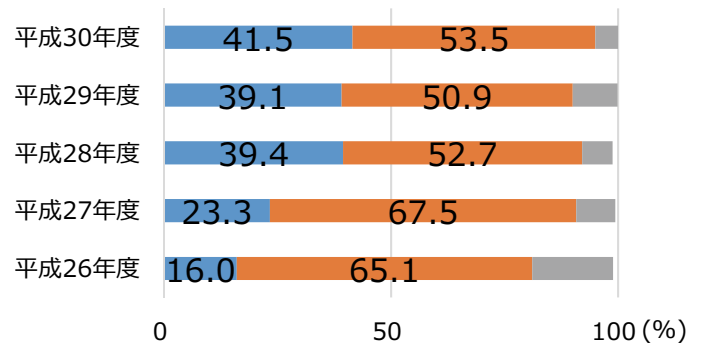
【学校質問紙】 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った ■ あまり行っていない ■ 全く行っていない

小学校



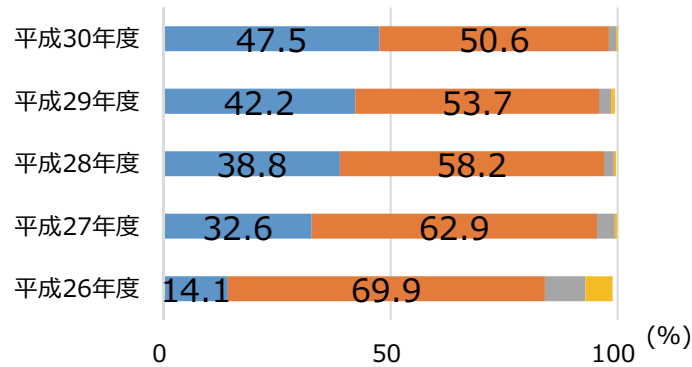
中学校



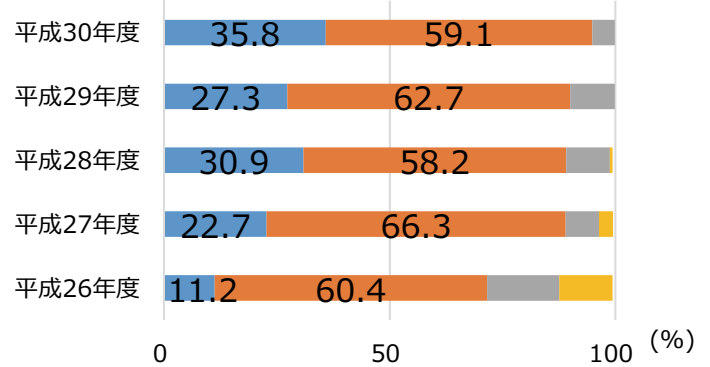
【学校質問紙】 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。

■ よく行っている ■ どちらかといえば、行っている ■ ほとんど行っていない ■ 地方公共団体における独自の学力調査を実施していない

小学校



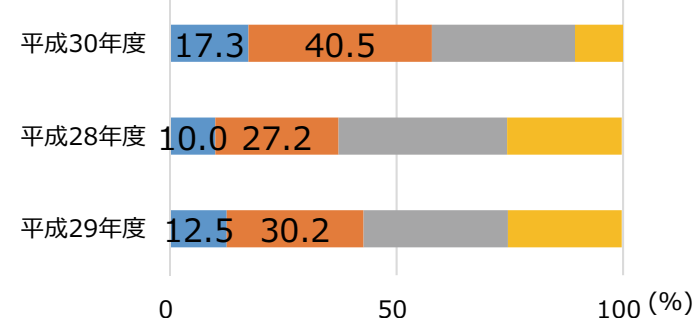
中学校



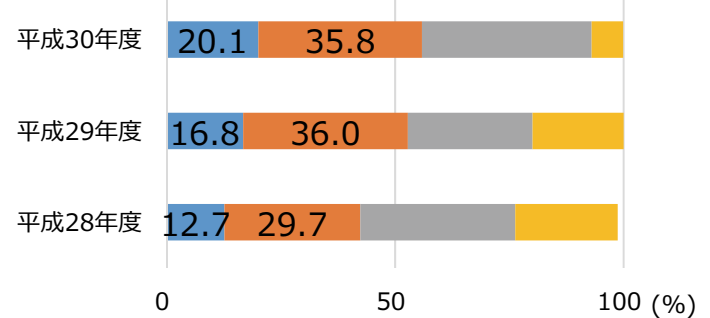
【学校質問紙】 平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有しましたか。

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った ■ あまり行っていない ■ 全く行っていない

小学校



中学校

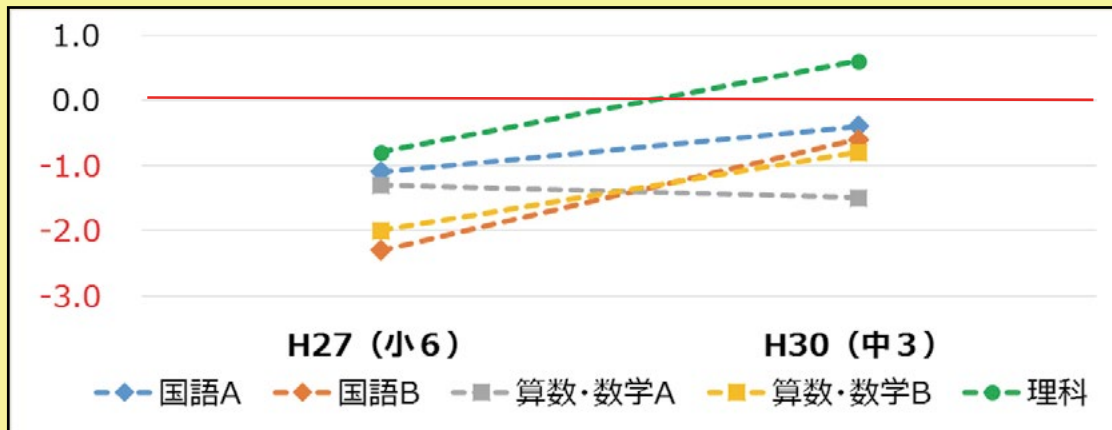


当該学年の学習内容の**確実な定着**に向けて



今年度調査において、同一集団(平成27年度小6と平成30年度中3)における全国との差の比較をしてみると、多くの教科で右上がりの推移になっており、改善傾向が見られます。

同一集団の比較



平成27年度と平成30年度の全国学力・学習状況調査で同一集団の比較をすると、特に、算数・数学Aにおいて、小学6年時より中学3年時の方が、全国との差がマイナス方向に開いてしまう傾向が見られます。

例えば、今年度の数学Aでは、どのような問題で全国との差が大きかったのでしょうか。

1 (3) $2 \times (-5^2)$ を計算しなさい。

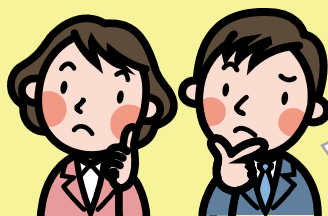
解答類型を見ると、「50と解答している」生徒の割合が**21.6%**、「-20と解答している」生徒の割合が**6.5%**と、ともに全国と比べて高いことが分かります。

このように解答した生徒は、どのようなところにつまづいているのでしょうか。



解答類型		栃木県	全国との差
1	◎ -50と解答しているもの。	63.0	-5.9
2	50と解答しているもの。	21.6	2.8
3	-20と解答しているもの。	6.5	1.5
4	20と解答しているもの。	2.5	0.6
99	上記以外の解答	5.5	1.2
0	無解答	0.9	-0.1

「50と解答している」生徒は、「 $(-5)^2$ 」と「 -5^2 」の違いを理解できていないことが考えられます。【類型2より】



「-20と解答している」生徒は、「 $(-5)^2$ 」と「 -5×2 」の違いを理解できていないことが考えられます。【類型3より】

本資料26ページでも述べたように、小・中学校ともに、下の学年におけるつまづきは、上の学年の学習に影響を与えることが考えられます。そのため、**当該学年における学習内容の確実な定着**を図ることが非常に大切です。

特に、基礎的・基本的な知識及び技能の定着に向けて、授業の終末において評価問題を解かせたり、その時間で分かったことを書かせたりするなど、「この時間、何ができるようになったのか」を実感として捉えさせるために、振り返る活動の充実を図ることが重要です。



3 「確かな学力」の向上に向けて

「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の取扱い及び調査結果の活用について（H30.7）」において、文部科学省は、「各学校においては、調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、指導計画等に適切に反映させるなどカリキュラム・マネジメントを推進し、教科指導等の改善に向けて計画的に取り組むこと。また、その際には、調査対象の学年や教科だけでなく、全学年、全教科等を対象として、学校の教育活動全体を見渡した幅広い観点から取り組むべき課題や、その改善に向けた取組について検討すること」と示しております。

各学校においては、本資料に自校の結果を追記するなどして、全国や県と自校の結果を比較し、実態を把握するとともに、日々の授業等を通して、調査結果から明らかになった課題の解決に向けて、学校全体で取り組み、児童生徒一人一人に「確かな学力」を育てていきましょう。

県教育委員会ではこれまで、「主体的に考え表現できる子どもを育てるために」、「とちぎの子ども

の確かな学力向上のために 授業改善に向けた3つの視点 Vol.2」を作成、配布してきました。

また、文部科学省からは、「全国学力・学習状況調査報告書」、「授業アイデア例」など学習指導の改善・充実に向けた資料が出されています。併せて御活用ください。



主体的に考え表現できる子どもを育てるために
栃木県教育委員会（平成26年度）



とちぎの子ども「確かな学力」向上のために
授業改善に向けた3つの視点
栃木県教育委員会（平成27年度）



とちぎの子ども「確かな学力」向上のために
授業改善に向けた3つの視点 Vol.2
栃木県教育委員会（平成30年度）



小学校報告書



中学校報告書



授業アイデア例

全国学力・学習状況調査 関連資料
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

※ これらの資料は、それぞれのホームページからダウンロードすることができます。

栃木県教育委員会事務局 学校教育課 学力向上推進室
〒320-8501 宇都宮市埜田1丁目1番20号 TEL: 028-623-3367 FAX: 028-623-3361